

令和6年度 年間学習指導計画案

科目	数学 I	単位数	1 単位	学年・学科・コース	2年・衛生看護科
使用教科書	最新数学 I (数研出版)		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容 (ねらい)	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	第5章 データの分析	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。	○			・平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。	定期考査 授業態度 課題
				○		・箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。	
					○	・データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。	
5 6 7	総合演習 第1章 数と式	既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。また、無理数の四則計算ができるようにする。不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。	○			・不等式の性質、1次不等式の解法を理解し、1次不等式を解くことができる。	定期考査 授業態度 課題
				○		・不等式の性質を、数直線と対応させて考察できる。	
					○	・連立不等式の解を考察しようとする。	
8 9	総合演習 第2章 集合と命題	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	○			・共通部分、和集合、補集合を求めることができる。	定期考査 授業態度 課題
				○		・ベン図などを用いて、集合を視覚的に考察することができる。	
					○	・日常語の「かつ」「または」との関連を認識しようとする。	

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
10 11 12	総合演習 第3章 2次関数	2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を再認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。また、2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解を深め、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	○			<ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解く方法を理解し、2次不等式を解くことができる。 2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。 	定期考査 授業態度 課題
				○			
					○		
1 2 3	総合演習 第4章 図形と計量	日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。また、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。	○			<ul style="list-style-type: none"> 正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。 日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。 	定期考査 授業態度 課題
				○			
					○		